

# 海外室 だより

No. 38

## 奥田専門家帰国

昨年6月29日から JICA の長期派遣専門家としてフィジーの CCOP/SOPAC に勤務していた奥田義久主研(海洋地質部海洋地質課)は 13ヶ月間の任期を全うして6月28日に無事帰国しました。

赴任直前に起きたフィジーでのクーデターの煽りを受けて 出発延期を余儀なくされた事情などは先に紹介しました(本欄No. 26)が 滞在期間中 生活の面では何かと苦勞が多かったようです。 出発前のゴタゴタが尾を引いたわけではないでしょうが 任期半ば頃から出ていた期間延長の話が 任期末近くなってまたまた拗れ 結局後任者との引継ぎのため1ヶ月延長ということで落着きましたが 本人はもとより 当所側関係者も大分ヤキモキさせられたことでした。

ともあれ 政情不穏の地にありながらも 業務遂行に邁進された奥田主研の努力と成果は 高く評価されるものと思います。 御苦勞様でした。(遠藤)

## 研修員の実習航海に同行して

沿海コース集団研修員の船上実習の実態調査ということで 7月8日から11日間 海洋地質調査船白嶺丸に乗る機会を与えられました。 ろくに顔と名前も一致しない外国人研修員11名と ほとんど英語を話せないこの私が はたして10日を超える長い間一緒にうまくやっているのか と内心不安になったりなどはちっともしません。 そこは過去2年間の海外室経験がものをいい こと研修員にかけては「どうにかなるさ」の境地に達しているのです。

船は富山県の伏木港を出港するので つくばからは鉄道を乗継ぐ形で乗船となりました。 翌日の出航までには時間があり そこらをうろつくうちにどうやら彼らの名前くらいは覚ええました。 今年の彼らは わりとおとなしい方で 際立ったリーダーの存在は認められず とはいえ 陽気で 人の好い連中だというのは例年同様といったところが初めの印象です(後に おとなしい部分

## タイトル・カット・イメージ

前々月号からタイトル・カットが新しくなっているのにお気づきと思います。 これまでは野外の調査風景を描いてきましたが 今回は少々おもむきを変えて 室内での マップをはさんだ討論シーンです。 描いている頃は部屋の冷房がきいてなく せめて涼しげな絵をと考えたのですが 実際のこのようなシーンでは 優秀な国産エアコンでも効き味がにぶるような熱い議論がとびかうことでしょう。

(河村)

は削られるのですが)。

昼に船は港をはなれ その夕方から 彼らの仕事が始まりました。 16時から22時までと翌早朝の04時から06時までの2時間ずつを 各2、3人ずつのチームが音波探査のワッチにつくのです。 初日ということもあったのか 皆真剣なサイエンティストの顔つきで説明を聞いていました。 ワッチは調査航海中ずっと続くのです。

翌日 及び翌々日は それに加えて 昼間のデッキで コアサンプル採取の実習がありました。 停船中のデッキから 長さ5m 重さ1tほどの金属製の筒をクレーンで海底に下ろし 堆積している泥の層を採るわけです。 筒の先には片側(入る方)にのみ開くわなの構造があり 筒の中は二重になっていて 内側のアクリル製の筒は揚収後抜き取られ サンプルもろとも二つ割りになる構造です。 そしてこれは そのままサンプルケースとしてパッキングされ 帰港後研究室に持ちこまれます。 研修員たちは 作業服に安全靴 そしてヘルメットといったデッキスタイルで最初は遠慮がちに作業を見学していましたが やがて その作業の手伝いにとけこんでゆきました。

その後は 海底の泥をすくいあげ そこから試料を洗い出すドレッジの作業も行われ 船の旅は順調に進みます。 幸い海はずっと穏やかで 研修員の一部に心配された船酔もなく みんな健康に過しています。 作業の合い間に輪投げを楽しんだり 適当な鉄棒をみつめて懸垂で体をきたえたりと すっかり船に慣れた頃 ひとつ

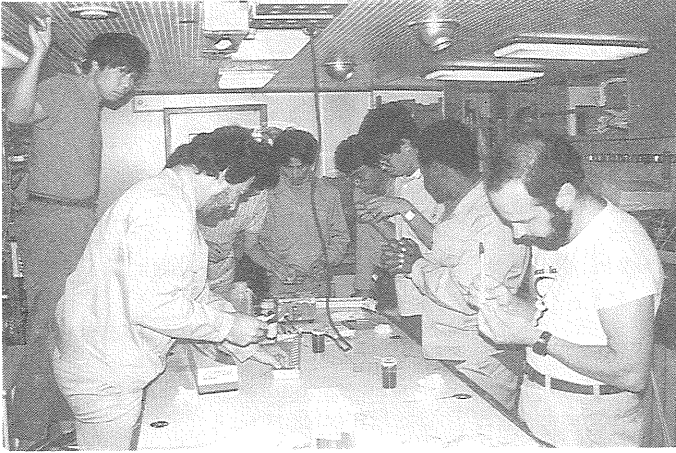


写真1 船内での実習風景。彼らのこんな真面目な顔 本国の人々だって見たことないんじゃないでしょうか(?)

の事件が起きました。というのは 私はもっぱらスチールカメラとビデオカメラをもって この実習の記録をしていたのですが 早朝のワッチ当番の研修員を起こす際に 彼らの寝起きをビデオに収めて楽しんでいました。そして予定のスケジュールをこなし 帰途に着く前夜 私は彼らの報復攻撃を受けてしまったのです。彼らの一味は私の部屋に忍び込み ビデオをスタンバイして私をたたきおこし ストロボを点滅させながら 私のなげない寝起き姿をみごとテープに収めたのでした。その後 味を占めたこのパイレーツ達に安眠を妨げられた海洋地質部の研究者の皆さん どうかおゆるし下さい。多少悪ふざけは好きですが 本質的には大変真面目な連中だということは充分御存じだと思いますので。そんな一幕はあったものの 翌日オプション・プロ

グラムとして スミアスライド作りの実習と コアサンプルの軟X線撮影の説明を受け 無事に我々は船橋港へと帰り着いたのでした。

とにかく言えることは この航海が 彼らの今後の業務に対して資するところ大なるものがあつたことに疑う余地はなく 私にとっては 楽しい調査旅行であつたということです。

末筆ですが 今回の実習でお世話になつた 海洋地質部の研究者の方々と白嶺丸の船長をはじめとするクルーの方々に厚くお礼を申し上げます。特に食べ物に関しては大変気を配っていただいて本当にありがとうございました。(河村)

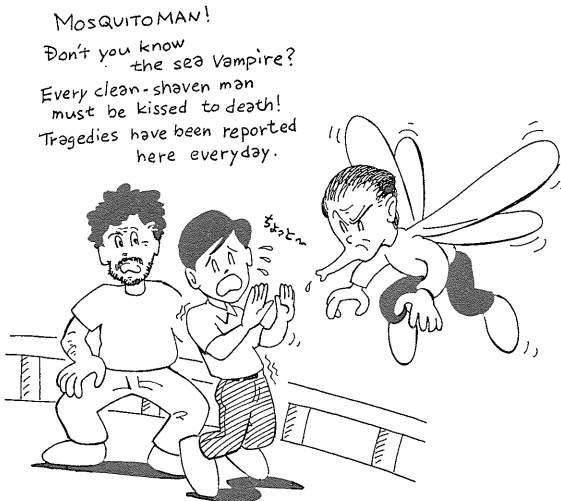
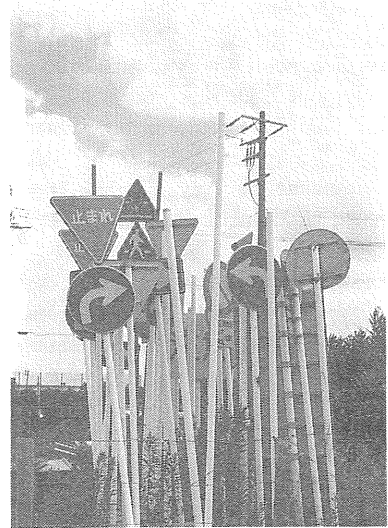


図1 上船中 研修生の間にひょんな事から持ちあがつた“モスキートマン伝説”を船上でイラスト化したもの。

1988年9月号



第2真 船橋港の近くに まとめてあつた道路標識群に いろんな国からの個性を集めた我が研修コースのイメージをだぶらせての ワンショット。

CCOP Technical Bulletin の内枠紹介 (その 2)

前号から始めた CCOP-TB の目次紹介の 2 回目です。

申込方法等は前号の本欄 No. 37 を御参照下さい。

TECHNICAL BULLETIN, volume 3, issued May 1970

CONTENTS

- I. Aeromagnetic survey of offshore Taiwan. By W. Bosum, G. D. Burton, S. H. Hsieh, E. G. Kind, A. Schreiber, and C. H. Tang, pages 1-34, 19 figures
- II. Note on sea bottom sampling in offshore area of Taiwan, China. By Chinese Petroleum Corporation, pages 35-36, 1 figure, 1 table
- III. Seismic investigation in the region of Poulo Panjang, offshore from southwestern Viet-Nam. By B. P. Dash, K. O. Ahmed, and P. Hubral, pages 37-54, 11 figures, 4 tables
- IV. Notes on the geology of the Tambelan, Anambas and Bunguran (Natuna) Islands, Sunda Shelf, Indonesia, including radiometric age determinations. By N. S. Haile, pages 55-89, 6 figures, 3 tables, 10 plates
- V. Regional geology and petroleum prospects of the marine shelves of eastern Asia. By M. Mainguy, pages 91-107, 2 maps
- VI. A conception of the evolution of the island of Taiwan and its bearing on the development of the Neogene sedimentary basins on its western side. By Chao-Yi Meng, pages 09-126, 16 figures
- VII. Placer deposits of detrital heavy minerals in Korea. By Won Jo Kim, pages 137-146, 3 tables
- VIII. Oceanography and limnology in Mainland China. By H. K. Wong, and T. L. Ku, pages 137-146, 3 tables
- IX. Foraminifera in the bottom sediments off the southwestern coast of Korea. By Bong Kyun Kim, Sung Woo Kim, and Joung Ja Kim, pages 147-163, 3 figures, 1 table, 3 plates

TECHNICAL BULLETIN, volume 4, issued June 1971

CONTENTS

- I. Aeromagnetic survey of offshore areas adjoining the Korean Peninsula. By W. Bosum, E. G. Kind, and J. H. Koo, pages 1-21, 11 figures, 2 tables
- II. Foraminiferal trends in the surface sediments of Taiwan Strait. By Tunyow Huang, pages 23-61, 35 figures, 2 tables
- III. Aeromagnetic survey in Region II of the Philippines. By Shun-ichi Sano, Katsuro Ogawa, and Felipe U. Francisco, pages 63-81, 7 figures, 1 table
- IV. Analysis of petroleum source rocks from the Philippines. By Yasufumi Ishiwada, pages 83-91, 6 figures, 4 tables
- V. Interpretation of the aeromagnetic map covering the Mekong Delta. By W. Bosum, E. G. Kind, and Ho Manh Trung, pages 93-102, 7 figures
- VI. Structural framework of the continental margin in the South China Sea. By M. L. Parke, Jr., K. O. Emery, Raymond Szymankiewicz, and L. M. Reynolds, pages 103-142, 26 figures, 1 table
- VII. A study of the sediments and magnetics across the continental shelf between Borneo and Malaya Peninsula. By Hiroshi Niino, pages 143-147, 3 figures, 1 table
- VIII. Bottom sediment map of Malacca Strait. By K. O. Emery, pages 149-152, 1 figure, 1 map
- IX. The East Asia shelves—A new exploration region with high potential. By Robert E. King, pages 153-163, 1 figure